

令和2年度第5回
関東学生ホッケー連盟役員会
議事録

期日：2020年7月22日（水）

時間：19時00分～21時05分

会場：オンライン会議にて実施

出席者：一川邦彦、寺本祐治（以上副会長）、関谷淳一（監事）、久我晃広（理事長）、萬納宏俊、成田健一（以上副理事長）、宮澤哲郎（事務局長）、臼井伸一、桑原一矢、西澤英一郎、三澤孝康、栗原崇、下平歩実、大野陽介、高田良太、近藤聡史、菅野芳哉（以上常任理事）

森翔平（学連委員長）、山本丈葵（競技委員長）、松田和真（広報委員長）、石川宝（学連副委員長）、山本真央（書記）、来栖しえる、和田翔太、池田拓巳（学連委員）

古屋会長が欠席のため、一川副委員長が代行して開催を宣言。

【審議事項】

1. 「第69回男子・第42回女子全日本ホッケー選手権大会」準備について

・「(従前通り) 男子24チーム・女子16チームでの東京での開催」「男女とも12チームに縮小して東京での開催」「男子24チーム・女子16チームで、東京と他地域での分離開催」「男女とも16チームに縮小して、東京と他地域での分離開催」、以上の4つの案が、主催者である日学連との協議で検討されている旨の報告が久我理事長よりあった。

寺本副会長より、関東学生ホッケー連盟は主管として、現在のコロナ感染状況を踏まえ、どのような規模・大会内容であれば開催できるのか、協議が必要との意見があった。

以上を踏まえ、適正な規模・大会内容について意見集約すべく、協議を行った。

・インカレ会場については、大学のグラウンド使用は難しく、現状は大井サウスと駒沢の2会場での開催が可能との前提であったが、近藤常任理事より、大井ノースも利用できる可能性が高いとの説明があった。以上を踏まえ、インカレ会場は、3会場確保との前提で進めることを確認した。

・開催自体が、現在の状況を考えると難しいのではないかと厳しい意見もあった。

・コロナ収束の見通しが立たない中、移動や宿泊のリスクや、1日あたりの試合数（1会場あたり1日・3試合が限度～消毒などに対応するため）を考慮すると従来規模の大会を開催することは難しく、「男女とも12チームに縮小して東京での開催」する方針を確認した。日学連理事会が7/27に予定されており、同理事会での協議に際し、関東学連としては同方針で臨むこととした（開催期間は5日間ではなく4日間で開催となるもの）。

・他地域での分離開催については、学生にとって参加校が増えるのは良いが、一方で大会を担当する学生役員が分散すること、および東京のホッケー施設使用機会が減ること等への懸念が示された。

・「インカレ出場権関東ブロック決定戦実施要項（案）」については、日学連で大会規模が確定次第、詳細を詰めることとした。なお、森学連委員長より、各チームのインカレ予選参加可否についての調査結果が報告された。

2. (コロナ感染防止を踏まえた) 関東学生ホッケーリーグ/インカレ予選開催マニュアルについて

・西澤常任理事より、新型コロナウイルス感染予防対応マニュアルとして、関東ホッケーリーグ/インカレ予選開催マニュアル（案）の説明があった。同マニュアルは、日本リーグの感染防止マニュアルを参考にして、一部修正を加え作成されたものであるが、今後の大会運営にあたっては同マニュアルをベースに感染予防を徹底することを確認した。

3. 秋季リーグの開催について

・森学連委員長より、各チームからの秋季リーグ参加申込状況の説明があった。参加申込書はほぼ全チーム提出している状況。しかしながら、未だに活動が制限されているチームも多数あり、実際に参加可否については、今後の状況踏まえる必要があるとの説明があった。

・また、会場（各大学グラウンド）の使用可能状況については、ヒアリングした限りでは、9月以降公式戦でのグラウンド使用可能は明治大学八幡山グラウンドのみ。慶應日吉については、関東学生ホッケー連盟よりリーグ戦会場としての使用申請を行う旨の報告があった。会場については、インカレ同様、各大学のグラウンド使用可能とは想定せず、大井ノース・サウス、駒沢を前提に試合日程を組んでいく方針を確認した。

・また秋季リーグ開催期間は、12月まで想定し、確実に開催できるよう準備をすることを確認した。

その他、秋季リーグのパンフレットについては（現状は準備が大幅に遅れており、開幕には間に合わないが）例年通りの冊子でのパンフレット作成することを確認した。

・今年はコロナの影響で準備は遅れているが、学生の活躍の場を提供するためにも、秋季リーグ開催に向け、可能な限りの対応を行うことを確認した。

以上

(押印略)

関東学生ホッケー連盟副会長 一川邦彦

関東学生ホッケー連盟理事長 久我晃広

関東学生ホッケー連盟学連委員長 森翔平